

人材養成および教育研究上の目的

経済学研究科経済学専攻は、経済学の基礎的・先進的な研究を進展させる場とこれらの高度な専門知識を社会のなかで実践する場を統合的に提供することで、経済学と関連する諸科学についての高度な専門知識を備え、それらの基礎的・先進的研究の深化を図ると同時に、高度な専門知識を社会のなかで効果的に適用できる有為の人材を育成することを教育研究の理念とする。この理念のもと、博士課程前期では、学術研究の発展を担う高度な研究能力を持った研究者となるための基礎力の育成、高い見識と専門知識を備えた専門職業人の養成、また、社会人のリカレント教育を促進することによって、高度な専門知識を社会のなかで効果的に適用する理論と実践との融合を検証する場を確保するとともに、外国人留学生の積極的な受入れによる国際的リーダーの養成、国際的貢献を目的とする。博士課程後期では、前期課程の教育をさらに発展させ、高度な研究能力を備え自立して研究活動を遂行し、基礎的・先進的研究の発展に寄与し得る研究者の養成、高度な専門知識を備えた専門職業人の養成、高度な専門知識を社会のなかで効果的に適用できる優れた経済人、産業人、国際的リーダーの育成を目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程前期＞		
経済学研究科経済学専攻は、人材養成および教育研究上の目的のもと、次に掲げるような資質・能力を有していると認められる者に、修士（経済学）の学位を授与する。	経済学研究科経済学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げるような方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	経済学研究科経済学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、次に掲げるような意欲と能力などを備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 ・経済学やその関連分野について、高度な専門知識を有することができる。(DP1) ・研究テーマについて一定の研究成果をあげることができる。(DP2)</p> <p>【到達指標】 ・修了に必要な授業単位数を取得することができる。(DP1) ・研究成果を修士論文としてまとめることができる。(DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・コースワークとリサーチワークのバランスの取れた学習を行うことを教育方針とする。カリキュラムは、基礎分野と専門分野から構成され、専門分野は、経済史学、理論経済学、応用経済学・経済政策学、計量経済学・統計学、行動経済学・地域科学の5つの分野からなる。学生は自ら研究課題を決め、基礎分野の科目群と自らの研究課題と関連する専門分野の科目群から履修科目を編成する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 1. 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計30単位以上を修得しなければならない。 2. 主要科目のうちから一つの演習科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。 3. 専修科目担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けなければならない。 4. 第1項の30単位は、専修科目の演習8単位、主要科目の講義及び特修科目のうち22単位以上(基礎分野のうちから4単位以上)、修得しなければならない。 5. 指導教員が、当該学生の研究上特に必要と認められた場合は、前項の規定にかかわらず、他の研究科博士課程前期の履修しようとする授業科目について、その担当教員の承認を受け、8単位を限度に専修科目以外の修得単位に算入することができる。 6. 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・修了に必要な授業単位数と各授業科目の成績により、評価する。(DP1) ・主査と副査による修士論文審査報告書により、評価する。(DP2)</p>	<p>【求める学生像】 ・経済学とその周辺領域の専門的知識や思考方法および研究方法を修得することによって、産業界において活躍しようとする人材、あるいは、この課程の修了後、さらに後期課程に進学して高度な研究能力の修得を目指す人材を求める。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 ・演繹的かつ帰納的に基礎的な科学的研究能力を有することができる。(DP3) ・研究成果をわかりやすく説明できる。(DP4)</p> <p>【到達指標】 ・研究内容を論理的にも実証的にも修士論文にまとめることができる。(DP3, DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の教育課程の編成部分に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・知識・理解の教育課程の実施部分に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・専修科目修了に必要な授業単位数とその成績により、評価する。(DP3, DP4) ・主査と副査による修士論文審査報告書により、評価する。(DP3, DP4)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 ・入学者選抜においては、学習に必要な基礎知識と語学能力を持つこと、経済学とその周辺領域についての学習と研究に意欲的に取り組む意思があることが評価される。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 ・様々な分野の基礎知識を蓄えることができる。(DP5) ・経済現象や経済活動に強い探究心を持ち続けることができる。(DP6)</p> <p>【到達指標】 ・経済現象や経済活動に関する問題点をある程度理解して、解決策を考察することができる。(DP5, DP6)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の教育課程の編成部分に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・知識・理解の教育課程の実施部分に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・修了に必要な授業単位数とその成績により、評価する。(DP5, DP6) ・主査と副査による修士論文審査報告書により、評価する。(DP5, DP6)</p>	

＜博士課程後期＞

経済学研究科経済学専攻は、人材養成および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（経済学）の学位を授与する。

経済学研究科経済学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、次に掲げるような方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

経済学研究科経済学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げるような意欲と能力などを備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

<p align="center">知識・理解</p>	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学やその関連分野の先進的領域について高度な専門知識を有することができる。(DP1) ・研究テーマについて独創的な研究成果をあげることができる。(DP2) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了に必要な授業単位数を取得することができる。(DP1) ・研究成果を博士論文としてまとめることができる。(DP2) 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>リサーチワークにウェイトを置いた学習を行うことを教育方針とする。カリキュラムは、博士研究に該当する研究指導科目と特修科目から構成される。学生は、研究指導科目の履修によって研究能力の向上を目指し、専門領域の理解の深化のために特修科目を履修することができる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の標準修業年限は3年とする。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学するば足りるものとする。 2. 学生は、1つの専修部門を選定し、この研究指導科目を専修科目として、24単位を修得しなければならない。 3. 専修部門の研究指導担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を従うものとする。 4. 学生は、専修科目のほか、特修科目のうちから2科目4単位以上を修得しなければならない。 5. 指導教員が、当該学生の研究上特に必要と認められた場合、学生は、選定した専修部門以外の研究指導科目を履修することができる。ただし、この修得単位は、修了要件単位数に算入しない。また、学生は、博士課程前期における主要科目（講義）及び特修科目を受講することができる。 6. 博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了に必要な授業単位数と各授業科目の成績により、評価する。(DP1) ・主査と副査による博士論文審査報告書や研究業績により、評価する。(DP2) 	<p>【求める学生像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学とその周辺領域に関する専門知識、論理的思考方法と高度な研究方法を修得し、研究活動によって学術的・社会的な貢献を行おうとする人材を求める。
<p align="center">技能</p>	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立した研究者として独創的な研究を行うためにも必要な高度の科学的研究能力を有することができる。(DP3) ・研究成果を学会などで明快に説明できる。(DP4) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容を論理的に実証的にも博士論文としてまとめることができる。(DP3, DP4) ・一定水準の学術誌に論文を掲載することができる。(DP3, DP4) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の教育課程の編成部分に含まれる。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の教育課程の実施部分に含まれる。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専修科目修了に必要な授業単位数とその成績により、評価する。(DP3, DP4) ・主査と副査による博士論文審査報告書または研究業績により、評価する。(DP3, DP4) 	<p>【入学者選抜の在り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜においては、経済学とその周辺領域についての専門知識と文献解読のできる語学能力を持ち、経済現象に対する強い探究心によって高度な研究活動を行う意思を持つことが評価される。
<p align="center">態度・志向性</p>	<p>【学修成果の目標】</p> <p>様々な研究を通して、社会にも貢献できるような意思を持ち続けることができる。(DP5)</p> <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会にも貢献できるような独創的な研究をすることができる。(DP5) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の教育課程の編成部分に含まれる。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の教育課程の実施部分に含まれる。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了に必要な授業単位数とその成績により、評価する。(DP5) ・主査と副査による博士論文審査報告書または研究業績により、評価する。(DP5) 	